

巻 頭 言

1999年4月に設立された立命館大学地域情報研究センターは、設立から16周年となる2015年4月の本学大阪茨木キャンパス（OIC）開設に伴い、衣笠キャンパスから大阪茨木キャンパスに移設され、地域情報研究所（英語名称：The Research and Development Institute of Regional Information）に改称された。

地域情報研究所においても、国内外における「地域」の物的・知的資源を活用した学術研究の重要性は益々高まるものと考えられる。OICの3つのキャンパス・コンセプトである「地域・社会連携」「都市共創」「アジアのゲートウェイ」はまさしく地域情報研究所の研究領域・対象と合致するものであり、今年度の本研究所紀要「地域情報研究」は地域情報研究所の設立理念とOICのキャンパス・コンセプトを反映した研究成果となっていると言える。

2015年度の本号から、大学院博士後期課程の大学院生による論文等については新たに査読制度を導入し、学術的に一定水準の質を担保するようにした。本号には、査読を経た論文・研究ノート3本に加え、今年度の4つの重点プロジェクト「地域連携・都市共創・アジア競争学創成の国際PBR/PBL研究」「地方自治体の貧困・低所得者対策に関する研究」「地域主体の低炭素社会実現を目指したカーボンマイナス・プロジェクト」「地域政策に関する国際共同研究・国際研修展開」に関係する5論文、4研究ノート、2報告が収められている。他にも、若手研究者育成のための地域情報研究所独自の萌芽的研究支援プログラムに基づく研究成果として2論文（磯部論文、金論文）が収められている。

地域情報研究所として初めての研究成果となる本号は、地域情報研究所における研究のさらなる展開と高度化のための堅固な土台になるものと確信している。

立命館大学地域情報研究所
研究所長 岸 道雄
2016年3月